

平成27年度第1回土浦市消防本部署所再編検討委員会

日時：平成27年 9月25日（金曜日） 15時00分～17時10分

場所：土浦市役所401会議室

【出席者】

議長：中川市長

委員：糸井川委員・川島委員・宇田川委員・清水委員・斉藤委員・田口委員
川又委員・吉田委員

（欠席者：梅本委員・石川委員）

事務局：小泉副市長・宇都野消防長・中川次長・塩ノ谷総務課長・中川課長補佐
嶋田課長補佐・古仁所係長・原係長・徳村主幹
消防科学総合センター渡辺研究員

傍聴人 1名

平成27年度第1回土浦市消防本部署所再編検討委員会次第

- 1 開 会
- 2 市長挨拶
- 3 土浦市消防本部署所再編検討委員会委員長，副委員長の選任
- 4 議事
 - (1) 署所再編検討に至った経緯について
 - (2) 消防署所の概要について
 - (3) 現況と災害発生状況について
 - (4) 消防力適正配置調査の内容について
 - (5) 消防力訂正配置の評価・算定方法について
 - (6) 今後のスケジュールについて
- 5 その他
- 6 閉 会

■配布資料

- 資料1 署所再編検討に至った経緯
- 資料2 消防署所の概要
- 資料3 現況と災害発生状況
- 資料4 消防力適正配置調査パンフレット
- 資料5 消防力適正配置調査 第1回経過報告
- 資料6 今後のスケジュール

質疑応答編

事務局より（1）署所再編検討に至った経緯について説明（資料1）

委員長： 昭和60年と平成26年では非常に若年層の数が少なくなっています。将来的なところ長寿化のために高齢者が増え、若年層、生産年齢人口はこのままですと減っていくという形です。

人口は減りつつ世帯数が増えるということは、核家族化や単身世帯が増えてきている。高齢単身の住まいも増えてきている。高齢者というところでは、救急需要が高いですし、速やかな覚知という点でも万全の体制をとっていかねればいけない。

財政力指数が減ってきている。実質公債費の比率が増えてきている。借金をしながらも、行政経費の節約をしていかねばいけない状況であります。その中で、効率的な消防行政を今後担っていくあるいは、質の高い消防行政を行っていくためには、どうしていったらよいかということの中で、審議していただきたい。

高齢化であるとか、財政の増強が良くなるということではない中で、消防行政をどうやっていくかについて今後、再編の方向性を考えていくとういことが再編検討に至った経緯です。

事務局より（2）消防署所の概要について説明（資料2）

委員長： 確認ですが、神立消防署の耐震改修工事は終わっている。荒川沖消防署の耐震改修工事も終わっている。並木の方が昭和57年で老朽化が進んでいる。新治の方は昭和62年ですが、状況はいかがですか。

事務局： 新耐震基準で建設されているので、耐震には問題ない。設備的には古くなってきている。

委員長： 通信指令棟は庁舎が田中の方に移転した後も、そこに残して業務をするのですか。

事務局： 通信指令課については、茨城消防指令センターで一括して119番を受信するシステムとなります。119番受信はすべてそこで行われ、現庁舎の通信指令課で119番を受信することは無くなります。

委員長： 災害メール等は。

事務局： 災害メール等の残った業務は、新消防庁舎の新たな編成の中でやるような形になります。

委員長： それでは、通信指令棟をそのまま今の消防本部の所で使うわけではないということですか。

事務局： 使いません。

委員： 新しくできるI級17号線は、完成が27年とのことですが、2027年で

すか。

事務局： 27年度、28年の3月31日までに完成です。

事務局より（3）現況と災害発生状況について説明（資料3）

委員長： 基準だと280名、現在の職員188名、充足率7割弱ですが、市の方針ですか。

事務局： 市の方針ではなく、基準280名というのは、目安とする基準が国から出ています。そのとおりに消防車を配置すると、それだけの人数が必要です。土浦の消防体制は、乗換運用の体制をとっているのですが、災害規模に応じて消防車を乗り換えて出場しているので、充足率は70%弱となっています。

委員長： 現着の平均時間が7分から8分、長いところで、新治の9.5分ですが、この平均は、茨城県、全国レベルでどうですか。

事務局： 全国平均は、去年のデータで8.5分、茨城は8.7分ということで、全国平均、茨城平均よりいい状況です。

委員： 新治の9.5分の原因はなんですか。

委員長： 守備範囲が広すぎるということでは。

委員： 市内に比べて道路は混んでないですね。

事務局： 市内に比べて、呼ばれた場所が点在しており、道が細いです。消防車も救急車も細い道はなるべく通らない、太い道を優先し走るのですが、現着までに時間がかかる状況です。

委員長： 全体のまちづくり、都市計画と関係してくることですね。

委員長： ドクターの必要な人数などは、10万人あたり200名ぐらいいれば充実している状況です。職員が188名で充実しているのですか。実際にその人数の中で、メンタル的、健康管理もあり充足率はどうなのですか。

事務局： どこの消防署でも条例定数までの人数はいない状況です。東京消防庁の場合は国の基準どおりの数値の人数はいると思います。

メンタルで休んでいる者は現在いません。過去に1、2名休暇を取っていた者はおります。産業医などもおきまして、産業医の問診を受けてもらうシステムがとれています。

委員長： 救急出場件数約7,000件に対し搬送件数約6,500件、不搬送約500、不搬送の内訳はどうですか。

事務局： 不搬送の内訳は、本人の拒否、社会死、などがあります。正確な数字は出ておりません。第三者通報、たまたま事故を見て、確認せず通報し、行ってみるとけが人がいなかったという通報は多々あります。行った救命士が観察し、身体が異常なく、本人の意思を確認し不搬送というものはあります。

委員： 死亡で不搬送は何件くらいありますか。

事務局： 正確な数字は次回に回答します。

センターより（4）消防力適正配置調査の内容について説明（資料4）

委員長： 再編という言葉で表しているように、いろんな署所の再編がありますが、統合、移設、移転、廃止、などポンプ車や救急車等の車両並びに、人的な資源をどこに持っていくか、ということも再編という形であるかと思えます。

土浦市の少子高齢化の進展並びに、財政という事をにらみながら、効率的な、あるいは公平な消防行政のサービスをどのように確保していくか、審議していただく事になります。そのための基準として、各地域への消防力サービス、ポンプ車の運用効果としての到着時間の分布、あるいは、救急隊の運用効果としての到着時間の分布等をアウトプットとして示しながら、審議していただく事になります。

委員： 消防需要という言葉が出てきているが、人口を見る場合、どのくらい先までの検討をしているのですか。

委員長： 救急需要で考えてみると、年少、20代、30代、40代、高齢者などによって救急需要は違うと思うのですが、今後、土浦市がどういう年齢構成で、どのような所に、どのような方がお住まいになってくるのか、という事の予測があると将来の救急需要の総量並びに、分布の予測が出来ると思えますが、消防科学センターではどこまで分析ができそうですか。

センター： 総量として救急需要がどういう風が変わっていくかという事は、よその本部で実際にやったことがあります。

人口問題研究所で将来人口の推計が出されております。これで土浦市の将来人口がどういう風に推移するか分かります。将来人口は40年先データまで取れます。それとあわせて、土浦市の年齢別の救急発生率は実際の数として知ることができると思えます。一般救急需要がどういった形で推移をするのかを、土浦市全体で把握することができます。

委員長： 町内別の年齢構成の人口分布があれば、現状の年齢別救急需要の割合を反映させることで、将来にわたって地区別の救急需要が予測できるという事ですね。

消防本部に尋ねますが、将来的な救急需要を含めた形での再編の検討なのか、現状を土台に評価をするのか確認したい。

事務局： 評価としては現状で。将来的に人口が減ってくるというか、何年後先かそういったところまでの評価ではありません。

現状の状況で判断して、将来人口が減る、財政が減るというところで検討をお願いしたい。

委員長： 全体的にどこの地域も、高齢化が進展して、人口が減ってくると、需要がどのくらい変化していくか検討できますか。

委員：2040年という言葉が出てきましたが、私が本で読んでいた中では、2039年までが死亡者数が増えるかと読んでいたことがあります。それから、どんどん人口は減ってくるだろうと。行政の政策ということには大きな響きがあると思います。地域というものを考えた場合、五中地区は人口が増えてきている。土浦市では、上大津地区、五中地区、三中地区の人口が増えているので、それをある程度見込んでやっていただきたい。

委員長：地域ごとに、人口が減る部分と、増える部分がありますが、高齢化も含めて、その中で場所ごとに、将来の救急需要を念頭にした評価も、今後、この作業の中でお考えいただくことが必要かと思えます。

消防署所の必要規模が出ていますが、この必要規模の必要という事の基準は、どういう受け算されるという事ですか。

センター：適正配置結果から申し上げますと、そこに置かれる車両の数になります。

委員長：救急需要に対してサービスは100%充たせないはずですよ。どこで切るか、例えば95%、80%というような。10分以内に到着できる割合が80%なのか、あるいは、平均的到着時間が10分なのか、基本的な考え方はどこにありますか。

センター：ある決められた時間に到着できるとか、平均到着時間がどれくらいを目安にしたらよいかというのは、消防本部個々のものなので、実際の調査の中で、土浦市が大体このぐらいという認識しかできないと思います。そういう意味で、それは基準になってこないのかと思います。ではどこを基準に考えたら、消防署所の規模をいえるかという、まずは全体で、土浦市で持てる消防力というのは上限があります。財政的であったり、職員の数であったり、その中で署所はこれぐらい持てるというのが妥当だろう、車両はこれぐらい持てるのが妥当だろう、という事で総量が見えてきます。それを、効率よく配分する中で、ここが一番多いから消防署です、少ないので分署とか、あくまで、全体の総量の中での配分での相対比較の中で、消防力の規模を必要規模ということでもとめたいと思います。

委員長：適正配置、の適正とは何を持って適正とするか。そのところが、サービスレベルとか、現着の平均時間なのか、ある時間内に到着できる割合なのか。

センター：適正根拠からいけば、大きく分けると2つありまして、決められた時間の到着率、あるいは、平均走行時間、それが目安として解りやすいと思います。

委員長：将来的な人口推移も含めた評価というのが、適正配置を考えていく上で、非常に重要なことかと思えます。

副委員長：適正配置と言っているが、財政から見た適正配置ですよ。消防も抑制化、人口も減る、財政も減る、最低限の機械とか人数をどうしたらよいか、という

事だと。適正化とは、いいような事だが、最低限のものがどのくらいだろうと、言う事だと思います。

委員長： 土浦の消防行政にさける財政的な問題から、消防車両、救急車両、人員をどうに割り振っていくと、救急、火災等のサービスレベルが一番最大化するかを考えていく。与えられた資源の中で一番努力できるものは何か、ここでいう適正配置なのかと思います。

土浦はP A連携をしているが、P A連携も含めた評価は可能ですか。

センター： P A連携も含めた評価はできると思います。救急だけで最先着をみるのも方法ですが、各署所に救急隊が少ない場合には、あるいは救急隊の出動頻度が高い場合、圧倒的に出動頻度がポンプ車の方が少ないので、その署所にいる確率の分だけより近いところから、ポンプ車で行って初動対応ができるという事があると思います。そのあたりをP A連携の評価として十分考えられると思います。

委員長： 救急というのは現着して患者を病院等に搬送して、そこで救急の役割が終わるわけですね。病院までの搬送時間のトータルで評価すべきという気もします。

センター： 救急隊ごとに、実際の活動結果につきまして出動してから、帰署するまでのどのくらいかかっているか、という事をデータとしていただきましてそれかける救急隊の活動件数で、署所に居ない時間になるので、そこを、救急隊の対応できる確率として評価のなかに入れてたいと思います。

委員： 人口の増減を調べていただいて、財政もあります、やはり一番いいものを行政のトップの市長が示して、人口の増減は安心安全につながる問題ですから、安心安全な所には人口がある程度流れてきますから、そういうことを考えた場合、いたずらに消防の安心安全を減らすことは大変なことなので、何年後か先、25年先とか考えなくてはならない。

委員長： 2040年も含めた上でのご検討をお願いします。

センターより（5）消防力適正配置調査 第1回経過報告について説明（資料5）

委員： 私は第5地域に住んでいます。第5地域っていうのは協同病院が移転しまして、かなり人口の増が今後見込めます。それも急激に見込めると思います。その割には算定が今のところではちょっと違っているのかなと考えます。財政的にもたくさんお金をかけるわけですから、その辺をちゃんと算定していただきたいと思います。

委員： 高速道路に関しては、高速道路のインターから何キロ以内に消防署をつくらなければいけないと聞いたことがあります。何キロ以内に消防署をつくらなければいけないという決まりはありますか。

事務局： 並木出張所がその高速道路のためにつくりました。その当時、作るに当た

っては何キロ以内に作ってくださいと、その分については補助を出しますということでした。現在はその制約はかかっておりません。

委員： 工業団地とか、そういうのに関しても特に、そういう建物の近くには必ず作らなければならないというのはありますか。

事務局： 作らなければならないというのはありません。市内全体を見回して、署所数というのが先ほど説明した消防庁の告示で出ています。人口がどのくらいの規模ならこのくらいの署所を持ちなさいというところしか出ていません。その数には土浦は達しています。

委員長： 神立の場合には、周辺の工業団地等々があるので化学消防車を配置しているというような話だと考えてよろしいか。

事務局： 配置に関してはそのとおりです。

委員長： 委員の方からご要請があったような形の将来的な動向ですね、そのようなところも視野に入れながら評価をしていくことが重要かと思えます。

事務局より（6）今後のスケジュールについて説明（資料6）

委員： 今回は内容を事前にわかって、我々が考えられるような資料がもしありましたら、予めご提示いただければ、少し切り替えながら勉強してきたいなと思えますのでお願いしたい。

委員長： 下読みができるとそれだけでも大分違います。資料できた段階で委員の皆様事前に郵送等していただけると非常によろしいのかなと、充実した議論が出来るのかと思えます。